

## 平成 24 年度「外部検定試験の活用による英語力の検証」報告書のポイント

## 1. 調査の概要

## (1) 調査の目的

「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～」(平成 23 年 6 月 30 日 外国語能力の向上に関する検討会)において提言された内容を踏まえ、民間事業者により開発された試験等を活用し、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に活かすことにより、英語教育の戦略的な改善を図る。

## (2) 調査事項及び手法

## ① 生徒に対する調査：英語力に関する調査及び質問紙調査

英語力に関する調査は、以下の2種類の外部検定試験から教育委員会が任意に選択したものが実施された。いずれの試験も、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、及び「書くこと」の4技能を対象としている。なお、スピーキング・テストについては、全受験者の約17%が受験した。

(A) 「英語能力判定テスト」をベースとした試験(公益財団法人日本英語検定協会)

(B) 「GTEC for STUDENTS」をベースとした試験(株式会社ベネッセコーポレーション)

## ② 学校に対する調査：質問紙調査

## (3) 調査の対象とする生徒

調査対象校(218校)に在籍する高等学校及び中等教育学校後期課程の第3学年の生徒

		英語能力判定テスト	GTEC for STUDENTS	合計
道府県数		5	40	45
学校数		21	197	218
生徒数	リスニング リーディング ライティング	4,916	46,602	51,518
	スピーキング	809	7,893	8,702
	生徒質問紙	4,919	46,368	51,287

## (4) 調査方式

「平成 24 年度 英語力を強化する指導改善の取組」事業(文部科学省委託事業)を実施する 45 道府県教育委員会が選定した高等学校に対して調査を実施した。

※教育委員会による学校の選定は、「平成 24 年度英語力を強化する指導改善の取組」事業において当該教育委員会が策定する「英語教育改善プラン」等に基づいて行われる。そのため、本調査は統計的に抽出された学校に対する調査ではない点に留意が必要である。

※「平成 24 年度 英語力を強化する指導改善の取組」事業は、東京都及び大阪府を除く 45 道府県において実施されている。

## 2. 調査結果の概要

### (1) スコアの結果

- 英語能力判定テストをベースとした試験及び GTEC for STUDENTS をベースとした試験の結果はともに、本調査結果の平均スコアとそれぞれの試験の全国平均スコアとの間に大きな差はなかった。
- 本年度は事業の初年度であったが、次年度以降はスコアの変化と指導方法等との相関関係を分析する予定である。

### (2) 調査結果から見られる傾向と課題

- 日常生活の身近な話題については相当数の生徒が英語で理解したり表現したりすることができているが、社会性のある話題について英語で理解したり表現したりすることに課題があった。
- 英文を英語のまま理解することや、英文中の情報と同様の内容であっても表現が言い換えられたものを理解することに課題があった。
- リスニングについては、会話や英文の概要や要点を把握すること、情報量が多い英文の内容を聞き取ることに課題があった。

### (3) 指導改善のポイント

- 日常生活の身近な話題に留まらず、社会性のある話題に対応できるよう、社会性のある話題に関して意見を述べ、その理由も併せて表現できるよう指導することが大切である。例えば、授業において社会性のある話題を含んだ教材を扱い、そのテーマについて生徒に簡単な調査をさせ、成果を発表させたりするなどして、日頃から問題意識を持つように指導することなどが必要である。
- 英文中の情報と同様の内容であっても表現が言い換えられたものについては適切に理解できていない傾向があることから、聞いたり読んだりした内容について、別の表現で分かりやすく言い換えながら伝える活動などを行うことが大切である。そうした活動の中で、多様な語彙や表現に触れたり、それらを使用したりするよう指導することも重要である。
- ある程度分量がある英文の聞き取りや読み取りに課題のある生徒が多かったことから、生徒が、英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図るとともに、生徒の実態等に応じて教材の分量、難易度、学習速度等に留意しながら、多様な題材を取り上げて、生徒が英語に触れる機会を充実させることが大切である。